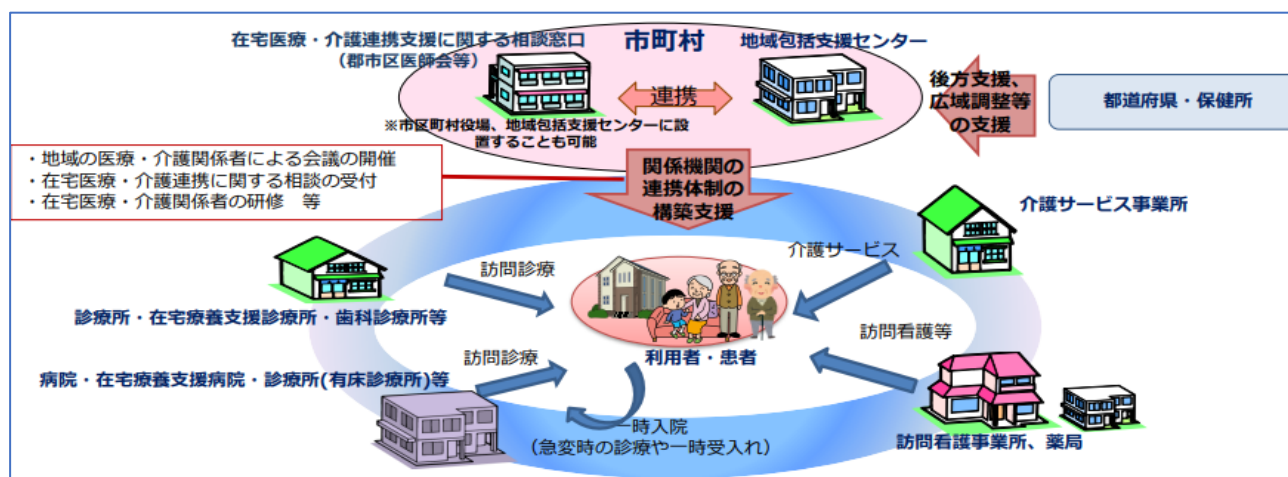


大和郡山市在宅医療・介護連携推進の取組み

1. 在宅医療・介護連携推進事業の概要

在宅医療・介護連携推進事業は、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、在宅医療と介護を一体的に提供し、切れ目のない在宅医療・介護の提供体制の構築を推進するために、地域の実情を把握・分析したうえで、住民や地域の医療・介護関係者と地域のためすべき姿等を共有し、医療と介護等の関係者との協働・連携を推進することを目的としている。



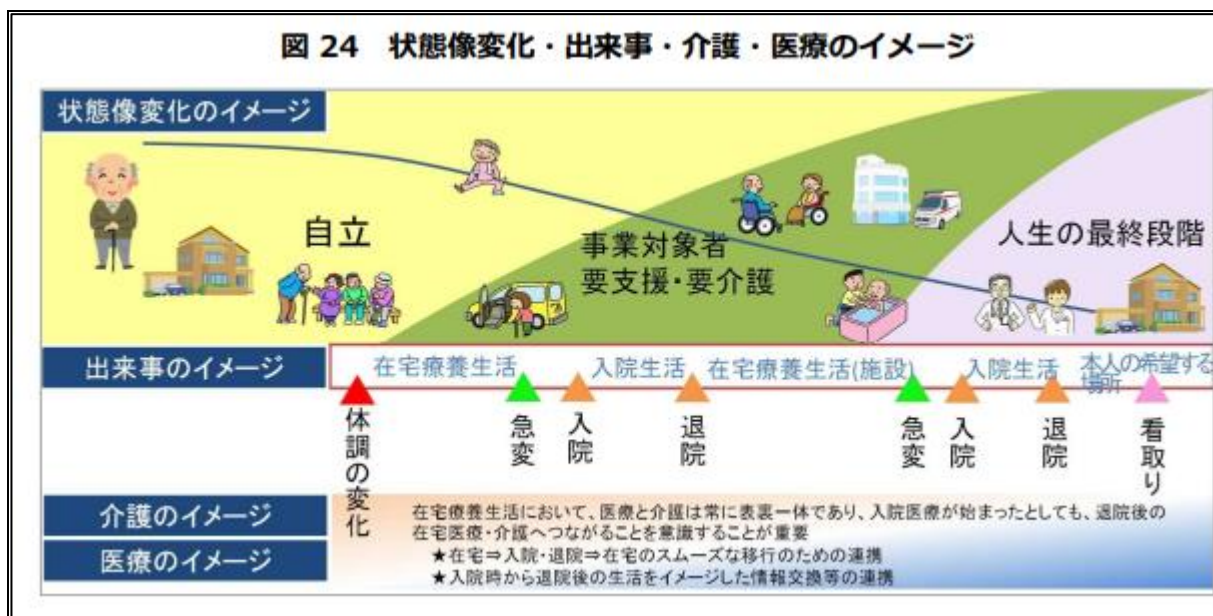
在宅医療・介護連携推進事業の手引き Ver.4より抜粋

内容

- (1) 在宅医療・介護連携に関して、必要な情報の収集、整理及び活用、課題の把握、施策の企画及び立案、医療・介護関係者に対する周知を行う。
- (2) 地域の医療・介護関係者からの在宅医療・介護連携に関する相談に応じ、必要な情報の提供及び助言その他必要な援助を行う。
- (3) 在宅医療・介護連携に関する地域住民の理解を深めるための普及啓発を行う。
- (4) 医療・介護関係者間の情報の共有を支援する、医療・介護関係者に対して、在宅医療・介護連携に必要な知識の習得及び当該知識の向上のために必要な研修を行う、地域の実情に応じて医療・介護関係者を支援する。

2. 場面に応じた支援

切れ目のない在宅医療と介護の連携体制を構築するためには、ライフサイクルの中で起こりうる節目となる場面を意識した取組が必要であり、さらにこれらを取り巻く環境にも着目する必要がある。



在宅医療・介護連携推進事業の手引き Ver. 4 より抜粋

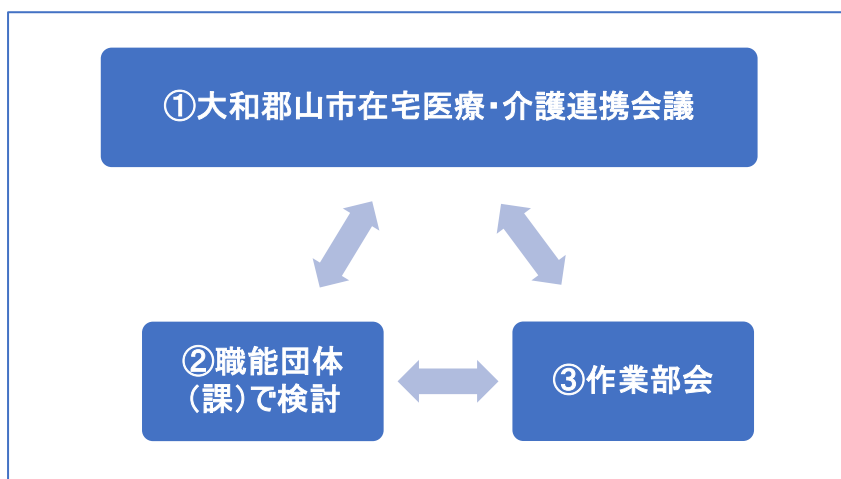
3. 検討の場

①在宅医療・介護連携推進の課題・方向性を検討する

②会議で検討したことや課題を各団体（※1）に持ち帰る

↓

③情報共有・具体的な取り組みの検討と実施（※2）



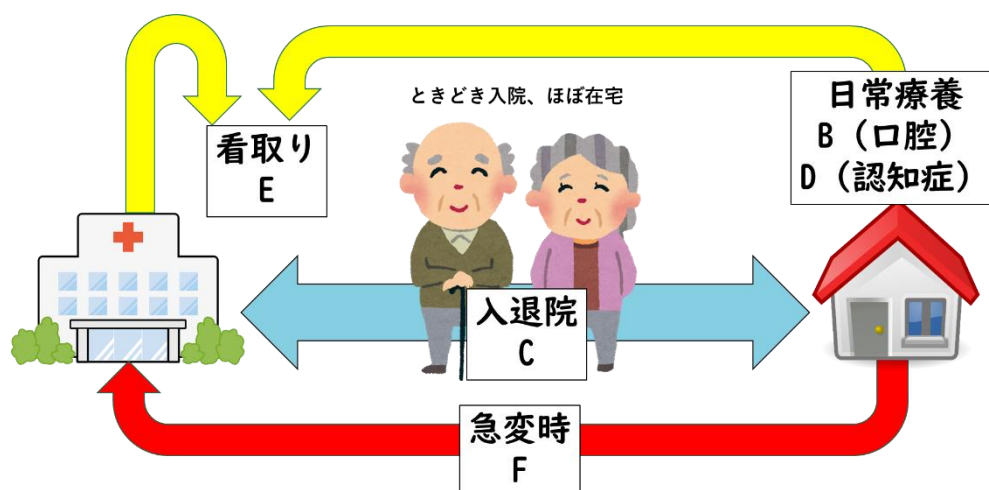
作業部会 D
認知症高齢者等への支援 GW
「認知症世界の歩き方」体験

※1【関係団体（課）】

大和郡山市医師会・大和郡山市歯科医師会・大和郡山市薬剤師会・大和郡山市訪問看護事業者連絡会・大和郡山市リハビリテーション連絡協議会・大和郡山市地域医療連携担当者連絡会・大和郡山市在宅医療介護支援センター・大和郡山市居宅介護支援事業者連絡会・大和郡山市地域包括支援センター・大和郡山市介護福祉課・大和郡山市保健センター・大和郡山市地域包括ケア推進課（事務局）

※2【作業部会と4つの場面】

会議名		協議事項
在宅医療・介護連携推進会議		大和郡山市の在宅医療・介護連携推進に係ることについて協議する。また、下記作業部会（A～F）の進行管理と、今後検討が必要な課題や取組みについて検討する。
部会 A	顔の見える関係	職能の相互理解を深め、多職種連携の充実を図るため、事例検討や研修会などの共同開催や講師派遣を通じた交流を図る。
部会 B	情報連携ツール	患者（利用者）を介して繋がる多職種同士が効果的な情報共有の方法について検討する。また、連携に関する実態把握と課題について検討する。
部会 C	在宅・病院連携	在宅から病院、病院から在宅へのシームレスな医療と介護の支援が行えるよう在宅医療・介護関係者と病院関係者が、平時・入院時・退院時に行う連携について必要なルールを検討し運用する。
部会 D	認知症高齢者支援	認知症高齢者等が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるように、本人主体を基本とした医療と介護の支援体制の構築について協議する。
部会 E	看取りの支援	看取りにおいて本人や家族の意思を尊重した様々な支援を行うために、看取りについての課題の共有と取組みについて検討する。
部会 F	急変時の支援	一人暮らし高齢者等の急変時に係る対応について、課題の共有と取組みについて検討する。
その他		医療と介護の相談窓口担当者連絡会



4. 在宅医療・介護連携事業関連会議の参加者数

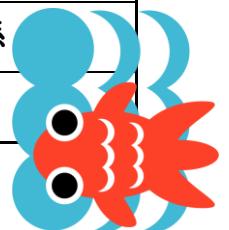
年度	項目	推進会議	部会A	部会B	部会C	部会D	部会E	部会F
R6	実施回数(回)	1		1	1	1	1	1
	参加団体数(団体)	11		11	10	9	9	7
	延べ参加者数(人)	23		24	42	25	26	20
R5	実施回数(回)	2		1	1	1	2	1
	参加団体数(団体)	11		11	10	11	14	7
	延べ参加者数(人)	53		23	47	25	52	27
R4	実施回数(回)	1		1	1	1	1	
	参加団体数(団体)	11		9	10	10	11	
	延べ参加者数(人)	28		19	50	30	26	
R3	実施回数(回)	2		1	1	1	1	
	参加団体数(団体)	11		8	9	10	11	
	延べ参加者数(人)	49		19	52	26	27	
R2	実施回数(回)	2		1	1	1		
	参加団体数(団体)	12		10	10	11		
	延べ参加者数(人)	55		23	40	28		
R1	実施回数(回)	2	1	2		1	2	1
	参加団体数(団体)	12	10	10		9	12	8
	延べ参加者数(人)	57	25	95		23	98	18
H30	実施回数(回)	2	1	1	7	1		
	参加団体数(団体)	11	9	9	10	12		
	延べ参加者数(人)	56	22	23	319	27		
H29	実施回数(回)	2	3	2	6			
	参加団体数(団体)	10	8	8	9			
	延べ参加者数(人)	49	50	30	358			
H28	実施回数(回)	2						
	参加団体数(団体)	8						
	延べ参加者数(人)	44						



作業部会 E 看取りの支援 GW

(参考) 大和郡山市在宅医療・介護連携会議 (構成メンバー) R5.3

協力機関 (団体) 名		(カ所)
医療	大和郡山市医師会	診療所数 57 病院数 6
	大和郡山市歯科医師会	診療所数 40
	大和郡山市薬剤師会	薬局数 34
	大和郡山市訪問看護事業者連絡会	事業所数 17
	大和郡山市リハビリテーション連絡協議会	事業所数 11
	大和郡山市地域医療連携担当者連絡会	病院数 6
介護	大和郡山市居宅介護支援事業所連絡会	事業所数 31
	大和郡山市地域包括支援センター	直営 1 委託 3
行政	大和郡山市すこやか健康づくり部 保健センター	
	大和郡山市福祉部 介護福祉課	
	大和郡山市福祉部 地域包括ケア推進課	事務局：地域ケア係
他	大和郡山市在宅医療介護支援センター	



5. 令和6年度大和郡山市在宅医療・介護連携推進事業の実施内容

部会名		内容	日時	参加団体	参加者
在宅医療・介護連携推進会議		・第9期介護保険事業計画に基づき、事業全体の方向性の検討や進捗管理。 ・高齢者の口腔ケアについて歯科専門職との連携の実態を関係者で継続審議となる。	R6.5.17 13:30-15:00	11	19
部会A	顔の見える関係づくり	・多職種連携、在宅医療・介護連携に資する研修等の情報集約、関係機関への周知 - R6.7.16 大和郡山市介護支援専門員研修会「難病ケアマネジメント」(地域包括センター) - R6.9.7 「命を守るための栄養関連の知恵」(県看護協会 他) - R6.11~12 多職種連携のための事例検討会(地域包括支援センター、計5回) - R7.1.16 「多死社会・無縁社会の中で」(居宅介護支援事業所連絡会) - R7.2.13 多職種連携で取り組む口腔管理・食支援・摂食嚥下リハビリの強化(県)	随時 各団体の担当者を通じて周知		
部会B	高齢者の口腔ケアに関する情報連携	・<u>口腔ケアに関する知識不足：CM や介護職員など、専門職を含め、口腔ケアの重要性や具体的な方法についての知識が不足している。</u> ・<u>医療機関、歯科医院、介護施設、CM など、関係機関間の連携が不足している。</u> ・口腔ケアに関する情報が散在しており、必要な情報にアクセスしにくい。 ・ツールパックの活用について：研修が必要	R6.10.23 13:30-15:30	11	24
部会C	在宅医療・介護関係者と病院関係者の連携	・CM を対象とした入退院連携の実態調査(R6.8) 報告 ・在宅医療介護支援センターの実績報告と業務内容の周知 ・4つの場面の取組みをロジックモデルで整理	R7.1.31 13:30-15:30	10	42
部会D	認知症高齢者等への支援	・<u>当事者視点の認知症支援について考える(認知症世界の歩き方体験)</u> ・家族・支援者はもちろん、社会にも『認知症』を理解することを周知していく必要性和、理解することで、当事者はその人らしく生活できるサポートを受けることができるようになるが、支援する側(家族・支援者)が負担とならないような取り組みや仕組みを考えていくことも大事。	R6.8.2. 13:30-15:20	9	22

		・認知症予防ガイドブックの利活用⇒ <u>広報紙へのコラム掲載。</u>			
部会 E	看取りの支援	・支援者が ACP について理解を深め、実践する <u>この部会に参加していない方も人生会議について理解、実践してもらえるよう、継続的に機会を設けながら、一緒に理解を深めていく。</u> ・多職種が連携して在宅医療や看取りについて啓発をする ・わたしノートを作成して終了ではなく、<u>実際に活用しながら市民の方へ在宅医療や看取りについて考えてもらえるようなきっかけづくりができるよう考える。</u>	R6.7.17 13:30-15:30	9	26
部会 F	急変時の支援	・CM だけではなく、日ごろから友好的な付き合いのある人にも急変時対応を共有しておく。 ・<u>緊急連絡先の確認や更新は非常に重要。</u>いざというときに家族の携帯番号が変わっていたことがあったため気を付ける必要がある。 ・かかりつけ医に対しての事前の確認も重要。 ・広報紙で PR を行う、健康診断や介護認定調査などのイベントの時に普及、啓発を行える。人生会議の日《11 月》のように記念日を作って話し合ってもらうことも重要。 ・転倒やケガをきっかけに急変時のことを話し合ったり、緊とっとボトルの設置を推奨することが望ましい。 ・得た情報を共有するには個人情報の壁が存在するのでそこをどうクリアするかが今後の課題。	R6.6.12 13:30-15:30	7	20
その他	医療と介護の 相談窓口担当 者連絡会①	・在宅医療介護支援センターと地域包括支援センターによる情報交換会 ・令和5年度振り返り、令和6年度事業計画	R6.4.17 13:30-14:15	3	10
	医療と介護の 相談窓口担当 者連絡会①	・在宅医療介護支援センターと地域包括支援センターによる情報交換会 ・令和6年度振り返り、令和7年度事業計画	R7.2.12 13:30-	4	10

計9回

(延べ) 173人

6. その他

(1) わたしノート(概要版)・医療と介護の相談窓口の周知(つながり全戸配布 12/15)

年に1度は
わたしノート
を書こう！

医療と介護
概要版

将来、もしも寝たきりになってしまったり、急に体調を崩したりした時、あなたはどんな風に過ごしたいですか？

日頃、健康に気を付けているつもりでも、いつ何が起こるかわかりません。もしもの時にあわてないために、家族や身近な人と医療や介護のことについて話してみませんか？

「わたしノート」とは、突発的な事故や病気などで自分のことを自分で決められなくなった時のために、受たい医療や療養中の暮らし方について、あらかじめ記入しておくノートです。

市ホームページで「わたしノート」を検索すると、本編と概要版をダウンロードすることができます。記入方法などくわしく知りたい方は、お近くの地域包括支援センターにお問合せください。



市ホームページ

生年月日 _____ 記入日 _____

大和郡山市在宅医療介護支援センター

《こんなことで困ったらご相談ください》

- ◎ 自宅などを定期的に訪問して診察してくれる医師について
- ◎ 自宅で受ける看護やリハビリなどの在宅医療サービスについて
- ◎ 近く退院する予定だが、退院後も自宅で医療を続ける必要がある

名称	大和郡山市在宅医療介護支援センター		
住所	本庄町 317-2 さんて郡山敷地内		
電話	0743-57-0589	FAX	0743-85-6631
相談時間	月～金 10:00～16:00		
その他	相談無料 来所される場合は要事前連絡		

(2) 在宅医療介護支援センター(チラシ) R7.3 末

こんなお悩み
ありませんか？

退院後、介護が必要になるのでどうしていいかわからない

自宅で利用可能なリハビリや看護などの在宅医療サービスについて教えてほしい

自宅で看取りたい

自宅で緩和ケアを受けたい

通院が困難なため訪問診療を受けたい

デイサービスに行きたいがどうしたらいいかわからない

歯科医院に通院できないときはどうしたらいい？

処方された薬を自分で管理できない。どうしたらいい？



お気軽にご相談ください

大和郡山市在宅医療介護支援センター



(3) 認知症予防についての情報発信（広報つながり R6.12/15～随時コラム掲載）

号	テーマ	執筆団体
12/15	認知症は早期発見・早期対応が大切です	医師会
1/10	医師に伝えるポイント	地域医療連携担当者連絡会
2/1	適度な運動	リハビリテーション連絡協議会
2/15	食事と栄養	保健センター
3/1	社会参加	地域包括支援センター
3/15	口の健康と認知症	歯科医師会
4/1	認知症にかかわる薬のはなし	薬剤師会
5/1	接し方のポイント	居宅介護支援事業者連絡会
6/1	生活習慣病の予防や治療	訪問看護事業者連絡会

今日からはじめる認知症予防①

～大和郡山市医師会からのメッセージ～

医療と介護の関係者が認知症予防についてまとめた冊子「認知症予防ガイドブック」をより多くの人に知ってもらうために本号より各機関がメッセージを掲載します。

認知症予防ガイドブック▶



「おやっ？」さっき言ったことをまた言っている。
 几帳面な性格だったのに部屋が散らかっている。
 料理の味が少し変わったかな。
 もうすぐ診察日なのに薬が半分余っている。
 あまり家から出なくなった。でも様子は普段と変わりないんだけど。



こんな些細な症状から認知症の早期発見につながる場合があります。
 認知症を早期発見できれば、治療や介護の幅が広がったり、最近、発売されたアミロイド蛋白を除去する新しい認知症治療薬を使用することもできます。『おやっ？』と思ったら早めに地域包括支援センターにご相談ください。

また、認知症予防ガイドブックもご活用ください。

問合せ＝地域包括支援センター（☎55-7733）

今日からはじめる認知症予防②

～大和郡山市地域医療連携担当者連絡会からのメッセージ～

地域医療連携担当者は、病院で患者の受診・入退院支援を行う相談員のことです

医療と介護の関係者が認知症予防についてまとめた冊子「認知症予防ガイドブック」をより多くの人に知ってもらうために各機関がメッセージを掲載しています。



医師は、その日の診察場面だけで診断するのは難しいものです。本人の日頃の様子をよく知っている家族や周囲の人（支援者含む）からの情報が診察に役立ちます。診察場面だけでなく、普段の症状を伝えることが大切です。医師に伝えるときは、次のポイントをメモにまとめ、事前に医療機関に渡しておくことで診察がスムーズに行えます。

- ・いつ頃からどのような症状があるのか？
- ・どのようなことに困っているのか？
- ・睡眠や食事をとることができているか？
- ・体調や身の回りの環境に変化はなかったか？
- ・現病歴や既往歴、内服薬について 等

詳しくは、認知症予防ガイドブックをご覧ください。

問合せ＝地域包括支援センター（☎55-7733）



参考資料

在宅医療・介護連携推進事業計画(第9期介護保険事業計画) R6～R8

医療と介護の複合的ニーズを持つ高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい生活を送ることができるよう、大和郡山市在宅医療・介護連携推進会議を中心に、本市の実情に応じた医療と介護の多職種連携のさらなる強化に取り組むとともに、在宅医療と介護を一体的に提供できる体制の強化、市民の在宅医療・介護や看取りなどへの意識づくりに取り組みます。



めざす大和郡山の姿
○ 医療や介護の専門職・関係機関等の連携により高齢者一人ひとりの状態にあった支援につながっています。 ○ 医療と介護の複合的ニーズを持つ高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい生活を送ることができています。

成果指標 (めざす大和郡山の姿を確認するための指標)	令和5年度 (2023 年度)	令和8年度 (2026 年度)
1. 医療と介護の連携が図れていると考える専門職の割合	62.4%	増加
2. 人生の最終段階での在宅医療や介護について、家族や医療介護関係者等と話しあいをしている一般高齢者・要支援認定者の割合	30.5%	増加
3. 在宅で医療を受けながら療養することについて、「希望するし、実現可能だと思う」一般高齢者・要支援認定者の割合	14.8%	増加
4. 市の認知症に関する相談窓口の専門職(地域包括支援センター除く)の認知度	89.9%	増加
5. 「認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン」の専門職(地域包括支援センター除く)の認知度	58.4%	増加
6. 「在宅医療・介護関係者と病院関係者の連携マニュアル」の専門職の認知度	77.5%	増加

1・4・5・6:在宅医療・介護関係者の連携に関する調査、2・3:介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

1. 在宅医療と介護を一体的に提供できる体制の構築・強化

活動指標	令和5年度 (2023 年度)	令和6年度 (2024 年度)	令和7年度 (2025 年度)	令和8年度 (2026 年度)
大和郡山市在宅医療・介護連携推進 会議開催数(回)	8	7→8	7	8
要介護認定者の入院時に介護支援 専門員から病院への情報提供率(%)	91.4	維持 100.0	維持	維持
要介護認定者の退院時に病院から 介護支援専門員への退院調整率(%)	60.0	増加 42.9	増加	増加
在宅医療・介護連携に関する取り組み 実態調査	実施	—	—	実施
急変時の対応についての事前協議に 困難を感じる人の割合(%)	医療機関 19.5 医療専門職 29.3 CM・包括 15.4	—	—	減少

(入院・退院調整率)

市民が入退院する際に、生活状況や病状について CM⇄病院が情報共有していることを示す指標。

2. 在宅医療・介護についての理解の促進

活動指標	令和5年度 (2023 年度)	令和6年度 (2024 年度)	令和7年度 (2025 年度)	令和8年度 (2026 年度)
市民を対象にした在宅医療・介護に関 する普及・啓発等の実施	ACP 講演会 人生会議動画	チラシ全戸 配布	実施	実施
わたしノート(概要版を含む)の見直 し	わたしノート 作成	—	—	見直し
医療・介護関係者を対象とした研修 会、事例検討会の開催(回)	6	6→7	6	6
認知症について語ろう会の開催(回)	6	5→6	5	5

(わたしノート)

いつまでも自分らしい暮らしを送ることができるように、自分の大切にしたいことや周囲の人に知っ
ていてほしいを書き留められるような市オリジナルノート。医療・介護・権利擁護関係者と令和 5 年
度に作成。年齢や病状を問わず、思いついたときに記入できるよう、普及啓発を行っている。

(認知症について語ろう会)

認知症高齢者等が、住み慣れた地域で安心して暮らすために必要なことを医療・介護・福祉関係者が
必要なことを語り合う場。包括圏域ごとに開催している。内容によっては、民生委員や自治会、地域
住民も参加し、認知症高齢者等を見守る地域づくりについて意見交換を行っている。